

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成27年度技術情報第9号(イチゴの炭疽病) について (送付)

イチゴの炭疽病について情報をとりまとめましたので送付します。本年は連続した降雨により、炭疽病の感染に好適な条件で推移しており、より一層の栽培管理の徹底と健全苗の確保に努めましょう。

1 農作物名 イチゴ (育苗期)

2 病害虫名 炭疽病

3 潜在感染株調査 (7月上旬採集)

(1) 発生地域 県本土

(2) 発生量 多 (親株の潜在感染)

4 情報の根拠

(1) 本年の親株での潜在感染ほ場率は83%で平成 (67%) より高く、潜在感染株率も33.6%と平成 (18.9%) より高い (表1)。

(2) 雨よけ栽培に比べ露地栽培の方が潜在感染が著しく多い (表1)。

(3) 本年の潜在感染ほ場率及び潜在感染株率は、平成21年以降の7年間で平成23年に次いで2番目に高い (図1)。

(4) 育苗ほ場において発病株の急激な増加は認めていないが、降雨が多く、発生に好適な条件が続いている。

5 防除上注意すべき事項

(1) 古葉は潜在感染している場合が多いので、新葉展開後は摘葉する。

(2) 炭疽病菌は高温多湿条件で多量の胞子を形成し、雨水等で飛散、感染する。

(3) 薬剤散布は新葉の展開速度や効果持続期間に応じて散布間隔が長くないよう7~10日間隔で予防散布を行う。

(4) 摘葉作業は、降雨時は行わない。

(5) 天候に合わせて、過灌水にならないように散水時間を調節する。

6 調査方法

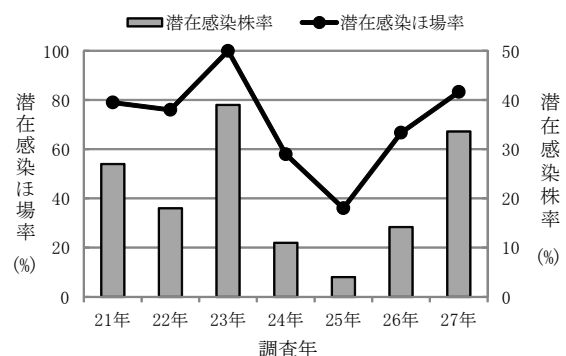
調査地点：日置市、さつま町、志布志市

潜在感染調査：1ほ場あたり20株の親株から下葉をそれぞれ1葉採集し、28℃のインキュベータで2週間保管した後、胞子塊の有無を調査した。

表1. イチゴ親株の炭疽病潜在感染状況 (7月)

調査地点	調査ほ場数	(屋根かけ栽培)	品種:ほ場数	潜在感染ほ場率 (%)	潜在感染株率 (%)
日置	4	4	さがほのか:4	50	2.5
さつま	3	1	さがほのか:1 さつまおとめ:2	100	56.7
志布志	4	0	さがほのか:4	100	47.5
平均				83	33.6
平成				67	18.9

注) 平成：平成21~26年の平均値

図1. イチゴ親株の炭疽病潜在感染の年次推移
注) 7月に採集した葉の潜在感染